

# 吹田市の「ゲリラ豪雨」対策は万全か

今年の酷暑は異常だった。ギラギラと照りつける太陽、熱中症で倒れる人が相次ぎ、寝苦しい熱帯夜が続いた。コンクリートで固められた大阪は「ヒートアイランド現象」のため、さらに蒸し暑く、沖縄より気温が高い日も多かった。そんな酷暑について回るのが局地的な「ゲリラ豪雨」。異常に温められた空気が上昇気流となり、瞬時に雲が発達しゲリラ豪雨が各地を襲う。もちろんわが吹田市も例外ではなく、近年たびたび激しい豪雨に襲われている。吹田市ではこの「いつ来るかわからない豪雨」にどのように備えているのだろうか？ 気温40度近い残暑の中、吹田市のゲリラ豪雨対策を取材した。



雨が上がり、水位が下がってからポンプで排水します

上の川沿いにあるきれいな公園だ。なんとこの公園の下には貯水量9100m<sup>3</sup>の巨大な調整池が眠っているのだ。

「大きさはどれくらいですか？」  
「縦40m、横57m、深さ8mの巨大な池ですね」

「雨水はどれくらい貯まるんですか？」  
「25mプールで約35杯分です。さっそく中へ入ってみよう。」

「ギーツというきしみ音を立てながらドアを開け、階段を下りる。」

「つわーっ、これは巨大な空間ですね」

「こちらが吐口、つまり雨水の侵入口です。降雨時には地上の川へ流さず、ここから水を落とす仕組みです」。

調整池の中央には大きなポンプが備え付けてあって、豪雨がすぎた後に、たまった水をポンプアップして上の川へ流す。

この調整池ができたのは、2003年。それまでは上の川上流一帯、つまり千里山・佐井寺地区が急速に開発され、田んぼや竹やぶが姿を消し、自然の保水能力が減少したため、この地域はたびたび床上、床下浸水などの被害が発生していた。この調整池ができてからは、昔のような洪水被害は今のところなくなっている。

## 各家庭での雨水貯留タンクの設置も助成

吹田市には、このような調整池のほかにも小規模な遊水池を設けたり、大きな雨水管を施設したり



一見すると何の変哲もない児童公園の下に巨大な調整池が

して、洪水を未然に防いできた。しかし昨今のゲリラ豪雨は、これまでの常識を覆すほどの激しさで都会を襲っている。

吹田市では雨水貯留タンク設置助成制度を開始した。各家庭にこのタンクを設置することで、暑い夏の散水や打ち水などに雨水を利用しながら、大雨時の浸水被害の予防に役立てようという試みだ。豪雨の際には、浸水地域に前もって土のうを設置するなど、文字通り浸水を水際で食い止めるサービスもしている。来年はもっと暑い夏になるのだろうか？ 地球温暖化対策は待ったなしである。



大雨時には「上の川」の雨水が流れ込む仕組み

# 千里山東公園 地下には巨大な調整池が...

なんと25mプールで約35杯分も貯まる

「着きました。ここですよ」。市役所下水管理課の職員さんに案内されたところは、千里山東公園。阪急関大前駅と千里山駅の間地点、



上：カンダハール空港には軍用ヘリが駐機していた  
中：米軍が「仕掛け爆弾通り」をカット  
下：「仕掛け爆弾通り」を猛スピードで突っ走る米軍の装甲車

# 監視 必要！ 50億ドルの使い道

カンダハール空港内部に米軍基地があつて、訪問時には、基地をせつせと拡張していた。オバマ政権はアフガニスタンに3万人もの米兵を増派したが、そのほとんどはこの基地に配属される。米軍はこの秋から「カンダハール掃討作戦」を行う予定なのだ。

上下水道、基地に引き込まれる電気やガスなどは、「アフガン復興費」から出されるのではないのか？

カンダハール空港と市内の「アフガニスタンの人々のために道路を整備しました」上下水道を引き込みました」と聞けば、多くの人は「日本も貢献したんだな」と感じるだろう。しかし実際は私たちの貴重な税金が、米軍のために使われてしまうことになる。

山前政権がオバマ大統領に約束した50億ドル（約4500億円）という巨額の支援金が、こうした米軍関連工事に使われるおそれがある。「アフガニスタンの人々のために道路を整備しました」

私はこの10月にも6度目訪問する予定だ。

普通の市民が空爆と銃撃戦で、家や親族を失っていく一方で、米軍関連の建設工事や麻薬で儲けた人々が、首都カブールにおしゃれなマンションを建てていく。

圧倒的な格差が戦争の引き起こしたもう一つの側面だ。新自由主義、つまり「儲けた者勝ち」の行き着くところ、それが戦争なのだろう。フリージャーナリスト 西谷文和

## カンダハールで戦争を考える

アフガニスタン南部の都市カンダハールを、昨年と今年、2回訪れた。カンダハール周辺は治安が極度に悪化し、今や陸路で行くのは自殺行為。外国人が乗った車を発見されれば、よくて拘束、悪くて殺害である。ちなみに地元の人々も陸路で行こうとする人はめっきり減った。



である。普天間は民家の中にあつて、戦闘機は小学校の屋根すれすれに着陸してくる。カンダハール空港は、周囲数キロにわたって何も無い広大な土地に位置している。民家はもろもろ一本の木も生えていない。なぜか？

民家や高木があれば、その物陰に隠れて武装勢力がロケット弾を放つから、治安維持のために周囲の障害物を取り除いているのだ。

覚悟を決めて「仕掛け爆弾通り」を通行する。すれ違うのは重機や建設資材を積んだ大型トラックだ。おそらくカンダハール基地の建設工事は、米軍、つまりペンタゴンが資金を出すのだろう。しかしその基地に通じる道路、道路に敷設される

カブールで建設中の高級マンション。貧富の差が広がっている

## 高級マンションと避難民キャンプ